

大 学 史 研 究 通 信

第 47 号、2006 年 8 月 31 日（木）

大学史研究会

第 47 号の内容：会員ニュース・会員名簿に関する調査の報告と名簿作成について・2006 年度年会費納入のお願い・第 29 回セミナーのご案内・会員新刊ニュース・事務局会開催の報告・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

会 員 ニ ュ ー ス

新入会員

森 良和 会員

所属： 玉川大学

研究テーマ： ハーバード大学の成立、ルネサンス時代の大学の実相、子供の歴史

林 透 会員

所属： 桜美林大学大学院

研究テーマ： 高等教育、大学評価

異動のあった会員（遡及分を含む）

五島 敦子 会員（所属変更）

新所属： 南山短期大学

会員名簿に関する調査の報告と名簿作成について

前号の通信発送の際に、会員名簿に関する調査をあわせて実施いたしました。ご多忙の折、多くの会員の方にご協力いただきありがとうございました。8 月 21 日現在、79 名の会員の方から回答をいただきました。なお、調査票には会員名簿に記載されないことを希望する項目（住所・電話番号関係）を回答いただく欄がございます。当初設定しました締め切りはすでに過ぎましたが、お手元にある場合には調査票に同封しました返信用封筒にてご返送くだされば幸いです。

さて、これまで事務局にて持っておりますデータと今回収集したデータをもとに会員名簿の作成作業に入っております（11 月の総会にて予算がつきますので、発行は 2007 年になります）。すでに回答をいただいている会員の方については問題はございませんが、回答をいただいていない会員の方のデータの記載方法が問題になってまいります。会員名簿が発行されない間に個人情報に対する意識が大きく変わってきたという実態がありますので、回答のなかった会員の方の情報の記載方法については 11 月のセミナーの際に開催される総会にて事務局より提案をし、ご審議いただく予定です。事務局提案についてはセミナー開催前に会員のみなさまにお示しします。

総会で決定した方法で実際に情報が流れることとなりますので、繰り返しになります
が、特に会員名簿に記載を希望されない項目（住所・電話番号関係）がおありの方は、
調査票に記入の上、その旨ご回答くださいますようお願いいたします。調査票を紛失した等
の理由で回答を希望するのに不可能であるという場合には、事務局代表Eメールアドレス
(jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)までご連絡ください。

(事務局名簿担当 岡田大士・吉野剛弘)

2006 年度年会費納入のお願い

大変遅くなりましたが、2006 年度年会費納入お願いのご連絡を申し上げます。

今年度は会員名簿に関する調査を実施し、会員のみなさまの御所属・御連絡先を確認
させていただくことを優先しました関係から、例年より納入依頼通知を差し上げるのが
遅くなりました。夏季休業期間中にあたり、事務処理上ご迷惑をお掛けすることなどが
ございましたら、深くお詫び申し上げます。

大学史研究会の実収入は会員各位からの年会費に大きくよっております。昨年度、全
会員数に対する年会費納入率は約 65%であり、未納会員も少なからぬ状況でした。幸
い、本年 2 月に納入依頼通知を未納会員の方に再送させていただきましたところ、8 月
現在、昨年度年会費納入率は約 83%にまで上昇いたしました。前々回の研究通信に掲
載されております会計報告のとおり、本研究会の財政状態は年々厳しさを増してしま
す。研究会の発展と円滑な運営のため、なにとぞ会員各位のご理解ご協力をお願い申
し上げる次第です。本年度会費の納入の詳細につきましては、同封しております納入依頼
通知をご覧ください。

年会費は 5,000 円です。大学院等在学、あるいは日本学術振興会特別研究員の各位に
は「院生・学生会費（年会費 3,000 円）」制度が適用されます。過年度分年会費未納
の会員各位には、同封書類に、未納年度と本年度会費分を含めた金額総計をご連絡して
おります。年会費 3 ヶ年度分以上の滞納会員には、研究会継続参加のご意志を年会費納
入によって確認できるまで、大学史研究会からの諸連絡や「研究通信」、紀要「大学史
研究」等の発送を停止することになっております。該当会員へのご連絡通知には、これ
に関する事項が記載されておりますので、ご留意願います。

なお、今年度から郵便振替の場合も銀行振込と同様に払込料金を会員ご本人様負担と
させていただくことが昨年度総会で決定いたしました。併せて、ご理解ご協力のほど、
なにとぞよろしくお願い申し上げます。

年会費納入払込先

郵便振替口座 大学史研究会 口座番号 00120-3-47583

または

銀行口座 大学史研究会 三井住友銀行 池袋東口支店（店番 671）
普通預金（口座番号 3456109）

(事務局会計担当 杉谷祐美子)

大学史研究会 第 29 回研究セミナーのご案内

第 29 回研究セミナーを以下の場所・日程で開催いたします。

場 所：近畿大学文芸学部 A 館（近畿大学本部キャンパス、東大阪市小若江 3 - 4 - 1）
日 時：2006 年 11 月 25 日（土）、26 日（日）

初日午後には自由研究発表、総会および懇親会、二日目午前および午後には課題研究を行います。この他、司馬遼太郎記念館の見学会も計画中です。

課題研究は以下のような内容のシンポジウムとして行われます。詳細なスケジュールなどはプログラムで改めてお知らせいたします。会員の積極的な御参加、非会員への来場のお勧めをよろしく願いいたします。

（事務局セミナー担当 福石賢一）

課題研究シンポジウムのご案内

テーマ：「蘭学・英学・仏蘭西学・独逸学・露西亜学・漢語学事始」（仮題）

パネラー：

蘭 学	米田該典（大阪大学）
英 学	西口 忠（桃山学院大学）
仏蘭西学	飯田史也（福岡教育大学）
独 逸 学	荒木康彦（近畿大学）
露西亜学	澤田和彦（埼玉大学）
漢 語 学	ポール・シンクレア（銘伝大学）

シンポジウムの主旨：わが国において何時、如何なる形で、上記の夫々の言語及びその言語圏の文化等の研究がなされ始めたのか、その言語の教育がなされ始めたのかについての研究は、従来から夫々の分野で熱心に行われてきたが、それらを一定の共通項を通して比較し、且つ相対的に考察・把握するという試みは、寡聞にして、これを知らない。今回のシンポジウムでは、以上の点を各パネラーが念頭において、出来るだけ一次史料に立脚して、報告をなすはずであるので、出席された会員・非会員から幅広い質問・指摘を頂ければ、幸甚である。そして、今回のシンポジウムの内容は『大学史研究』に掲載していきたい。更に、このテーマでの研究は、何らかの形で今後も持続して、再論出来ればと考えている。

（第 29 回セミナー世話人・近畿大学 荒木康彦）

会員新刊ニュース

* 2005 年以降の出版物のうち、本通信で未掲載のものを今回掲載しています。

1) Arimoto, A. & others(eds.), *Globalization and Higher Education*, RIHE International Publication Series No.9, Research Institute for Higher Education,

Hiroshima University, 2005.

- 2) 有本章 (編著) 『ファカルティ・ディベロップメントに関する主要文献紹介および文献目録』COE 研究シリーズ 19、広島大学高等教育研究開発センター、2006 年。
- 3) アンドレーア・シュタインガルト (進藤修一・他訳) 『ベルリン <記憶の場所>を辿る旅』昭和堂、2006 年。
- 4) 潮木守一 『大学再生への具体像』東信堂、2006 年。
- 5) マーク・ブレイ (馬越徹・大塚豊訳) 『比較教育学 伝統・挑戦・新しいパラダイムを求めて』東信堂、2005 年。
- 6) 梶雅範・他 『科学大博物館 装置・器具の歴史事典』朝倉書店、2005 年。
- 7) エイブラハム・フレックスナー (坂本辰朗・羽田積男・渡辺かよ子・犬塚典子訳) 『大学論 アメリカ・イギリス・ドイツ』玉川大学出版部、2005 年。
- 8) 新谷恭明 『学校は軍隊に似ている 学校文化史のささやき』福岡県人権研究所、2006 年。
- 9) Senba, K., Yasuhara, Y. & Hata, T. (eds.), *The Idea of a University in Historical Perspective: Germany, Britain, USA, and Japan, Reviews in Higher Education No.84*, Research Institute for Higher Education, Hiroshima University, 2005.
- 10) 瀧井一博編 (ローレンツ・フォン・シュタイン講述、陸奥宗光筆記) 『シュタイン国家学ノート』信山社出版、2005 年。
- 11) 館昭 『原点に立ち返っての大学改革』東信堂、2006 年。
- 12) 中山茂 『科学技術の国際競争力』朝日新聞社、2006 年。
- 13) 藪内清・中山茂 『授時暦 訳注と研究』アイケイコーポレーション、2006 年。
- 14) 別府昭郎 『大学教授の職業倫理』東信堂、2005 年。
- 15) 別府昭郎 『学校教師になる』学文社、2005 年。
- 16) 堀内達夫・他 『専門高校の国際比較 日欧米の職業教育 (新版)』法律文化社、2006 年。
- 17) 望田幸男・他 『西洋近現代史研究入門 (第3版)』名古屋大学出版会、2006 年。
- 18) 八木紀一郎 『経済思想 7 経済思想のドイツ的伝統』日本経済評論社、2006 年。
- 19) 八木紀一郎 『社会経済学 資本主義を知る』名古屋大学出版会、2006 年。
- 20) 松塚俊三・安原義仁 『国家・共同体・教師の戦略 教師の比較社会史』昭和堂、2006 年。
- 21) 安原義仁訳 『オックスフォード大学と労働者階級の教育：労働者の高等教育と大学との関係に関する大学ならびに労働者階級代表合同委員会報告書』高等教育研究叢書 85 号、広島大学高等教育研究開発センター、2006 年。
- 22) 山内乾史・原清治 『学力論争とはなんだったのか』ミネルヴァ書房、2005 年。
- 23) 山内乾史・杉本均 『現代アジアの教育計画 上・下』学文社、2006 年。
- 24) アジア開発銀行・香港大学比較教育研究センター編 (山内乾史監訳) 『開発途上アジアの学校と教育 効果的な学校をめざして』学文社、2006 年。

「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

本通信では、会員の研究活動の紹介を心がけておりますが、編集者の情報のみでは限界があります。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、事務局 (代表 E メールアドレス: jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp) もしくは本紙編集担当の福留までご一報頂ければ幸いです。

事務局会開催の報告

6月5日(月) 東京の青山学院大学に事務局員6名が集まり、事務局会を開催しました。本通信でもお知らせを掲載しているセミナーの開催や名簿調査、会計の状況などについて報告と議論を行った他、総会の運営や今年度総会での事務局からの提案事項などについて話し合いました。提案の具体的な内容については次号の通信でお知らせします。

本研究会の事務局は、所属の異なる会員によって構成されているため、業務は各局員の分担を明確にした上で、普段の連絡は主にメールを通じて行っています。しかし、時には直接顔を合わせる機会があった方が意思疎通の円滑化が図れるのではないかとこの提案が局員の間から出され、今回の開催に至りました。集まってみると、相互の業務状況の確認や意見交換など、メール上ではできない密度の濃い議論を行うことができました。当日の議論の中では、これからも適宜、事務局会を開催した方がよいのではないかとこの意見が出され、事務局として年1回程度のペースで開催を検討することになりました。開催に当たっては、会計上の負担を掛けられないようできるだけ配慮したいと思います。局員相互のコミュニケーションを高めることによって、今後とも会の運営に寄与していければと考えています。

(事務局 福留東土)

退会者の報告

以下の会員の方が退会されました。長い間本会の活動にご協力賜りまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

退会者： 青柳亮子 会員、栗原詩子 会員、大久保泰甫 会員、砂原教男 会員

原稿募集

『大学史研究通信』第48号は2006年10月31日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催の行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は事務局(代表Eメールアドレス:jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)もしくは本紙編集担当の福留までお願いいたします。

住所・所属変更届のお願い

住所や所属(昇任・学位取得も含む)に変更のある会員は事務局までご一報くださるようお願いいたします。教授・研究のために海外にご滞在予定の方も、海外での連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は事務局代表Eメールアドレス(jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)までお願いいたします。なお、変更届にあたっては、年会費払込票(郵便口座)の「通信欄」を利用することも可能です。

『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第14号～現在発行号までを希望者に頒布いたします。事務局代表Eメールアドレス(jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)までご連絡ください。折り返し、請求方法をご連絡いたします。

編集後記

今夏の国民的話題は高校野球と靖国問題でした。久しぶりに熱かった高校野球は、73年ぶりの3連覇か88年待った初優勝かを、37年ぶりの決勝再試合で決するというドラマティックな展開。これだけ長い年数が回顧された大会も珍しかったのではないのでしょうか。一方、靖国問題では、テレビや新聞の報道を見ながら、わが国ではまだ61年前の戦争の主體的総括が十分でないことを痛感しました。古い映像を多く見ることで歴史を身近に感じる一方、過去を踏まえて未来へ踏み出すことの重要性を改めて認識しました。戦後以来の大改革の渦中にある日本の大学も120年余の歴史をさまざまに検証する作業がよりいっそう必要とされているのかもしれない。そんな気持ちにさせられた夏でした。

今回の通信では、会員新刊情報の充実を図りました。2005年以降の刊行で通信未掲載のものに限りましたが、それでも24点の業績がありました。刊行物のタイトルを見るにつけ、本会会員のバックグラウンドと活動の幅広さを知る思いが致しました。

(福留 東土 記)

『大学史研究通信』第47号の編集は事務局・福留東土が担当いたしました。

連絡先 〒186-8601 国立市中2-1
一橋大学 大学教育研究開発センター
TEL: 042-580-8995 FAX: 042-580-8997
E-mail: h.fuku@srv.cc.hit-u.ac.jp

『大学史研究通信』第48号は、2006年10月31日発行予定です。

大学史研究会事務局

〒635 8530 奈良県大和高田市東中127
奈良文化女子短期大学 吉村日出東研究室内 大学史研究会
TEL: 0745 52 1279 E-mail: yosimura@narabunka.ac.jp
URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jshshe/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表Eメールアドレスまでお願いいたします。
E-mail: jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp

大学史研究会事務局員（五十音順）

岡田 大士 (東京工業大学)	杉谷 祐美子 (青山学院大学)
田中 正弘 (広島大学)	福石 賢一 (九州女子大学)
福留 東土 (一橋大学)	吉野 剛弘 (東京電機大学)
吉村 日出東 (明治大学)	